

上越市のために何をしてきたのか？

2009年8月に上越市に移り住んで以来、一市民として一貫して予算の使途が無駄遣いではないか問題提起してきました。また市民自身による発信、行動を重視し、市議選立候補に至ります。主な私の活動を紹介します。

2011.11

※上越市での政治参画スタート
「新幹線まちづくり推進上越広域
連携会議」の駅名等検討部会に
よる市民意見交換会に参加

2013

上越市議会「質問席」問題
議場の市議員問用の演台に
100万円かけの話があり批判

2015.2

「恋するフォーチュンクッキー
上越ご当地応援隊 Ver.」編集担当



2017.1~2017.3

国宝の刀剣「山鳥毛」取得問題
「税金で刀を買うことが
本当に必要か」問題提起
1月 インターネット署名サイト
にて署名活動
2月「山鳥毛フォーラム」開催、
実行委員長
3月 市議会に署名提出

2022.3~6

市議による野焼き問題
・市議会に赴き当該市議・会派に
直接市民に向けて説明を求める
・生活環境課長へのインタビュー
動画をYouTubeにて公開
・市議会議員のコンプライアンス
問題について市議会が説明責任
を果たすことを求める陳情書を
市議会に提出

2024.4

上越市議会議員選挙立候補
次々点で落選するも本人除き
1187 (いい花) 票をいただく

2012~2013

本町五丁目再開発問題
(現あすとびあ高田)
事業費 39 億 8 千万円のうち国や
市からの補助金 25 億円を使って
2階はいまだ埋まらず

2013~2014

(仮称) 厚生産業会館 (現オーレ
ンプラザ) 建設・増額問題
事業途中での建設費増額、一部
市民団体専用楽器庫など批判

2016.4~2020.4

平成28~31/令和元年度
春日区地域協議会委員
行政の「タマエ」を通さなくて
はならない立場を理解する機会と
なった

2016.4

市議選候補者にアンケート実施
市民個人が行ったアンケートで
回答率は 38.2%だった

2017、2021

市長選を前に財政課の職員を
招き財政の勉強会を実施

2021.7

「なおえつうみまちアート」
「包括連携協定」問題
市外の専門家、アーティストに
依存したイベントに予算 7000 万
円かける点を批判

2023.7

『21世紀の
上越スタイル
生活文化誌
2005-2025』
「上越市の合併
の変遷を総括
する」寄稿



市議会に革命を。職業政治家は不要！

理想

政治とは「政治家」と呼ばれる特別な人たちのものでは
なく、本来は**私たちが私たちの暮らしのために私たち
自らでやること**、普段から私たち市民の目の前に自然にあるもの
だと私は考えています。

だからこそ、**市民が働きながら仕事を辞めずに市政に関わる。**
普段仕事を持っているからこそ、専業で食べていけるほどの給料
を受け取る必要もない。来賓として行事に出席するような**権威**も、
物見遊山の視察に行く**特権**も必要ない。私はただの市民です。

人の金だと思って無駄遣いしない

意思

2024 年春の市議選に立候補した際、選挙ポスターや
選挙カーといった公費も含め 1 円も使いませんでした。
今の市政は、公費に群がるシロアリだらけ。私が**包括連携協定**や
通年観光政策、**ふるさと納税**を批判するのも、公費を狙う企業の
食いにされるからです。本来市議会の役割は予算の使途を監視
することのはず。物価高騰で市民生活が苦しくなっているのです。
議員と会派に交付される**政務活動費の廃止**や、**減税条例の制定**を
提案することで、市民のためになる予算の使い方を議論します。

上越市にはびこる閉塞感を打破する

信念

上越市に移住して一番感じたのは**市民の閉塞感**。自分
のふるさとなのに自分の住む街にうんざりしている。
例として、若い人たちから話を聞いて特に強く印象に残ったのが
消防団、なかでもとりわけ**ポンプ操法大会に対する憎悪**です。

少子化、人口減少の今の時代、時間的拘束を強いる消防団活動
は市民に負担が大きすぎます。ましてや**操法大会のような「儀式」**
はもはや旧弊。操法をやりたいくないから上越を離れるという人も
います。**人口流出の原因**になってどうするのでしょうか。

またポンプ操法大会は 6 月という暑い時期に実施されますが、
炎天下、市議が来賓としてテントの日陰で見ていることに怒りの
声もありました。本来市議こそ見本となるべきなのは？

逃げるができない市民の犠牲のうえに成り立つしくみは
限界です。上越市そのものを存続させるためにも、市民に負担を
かけず維持するしくみに変えましょう。

連絡先

090
4673
5817「いまぴーの革命レディオ」配信中
SNS/YouTube/Website(自称)革命家/元ミスター爆サイ
タイヤショップセカンドオプション代表

いま い た か し

今井 孝

〒943-0814
上越市大字岩木 2105-58 ピエスモンテ B-201

IMAI

理想と意思と信念。



政治は“政治家”のモノではない
市民が仕事を持って携わる
それこそが自治

今井 孝とは
何者なのか？

合併から20年。私たちは何者なのか。どこから来て、どこへ行くのか—— 上越市が今のすがたになった歴史を知ること、失いつつある地域のアイデンティティを見直そう

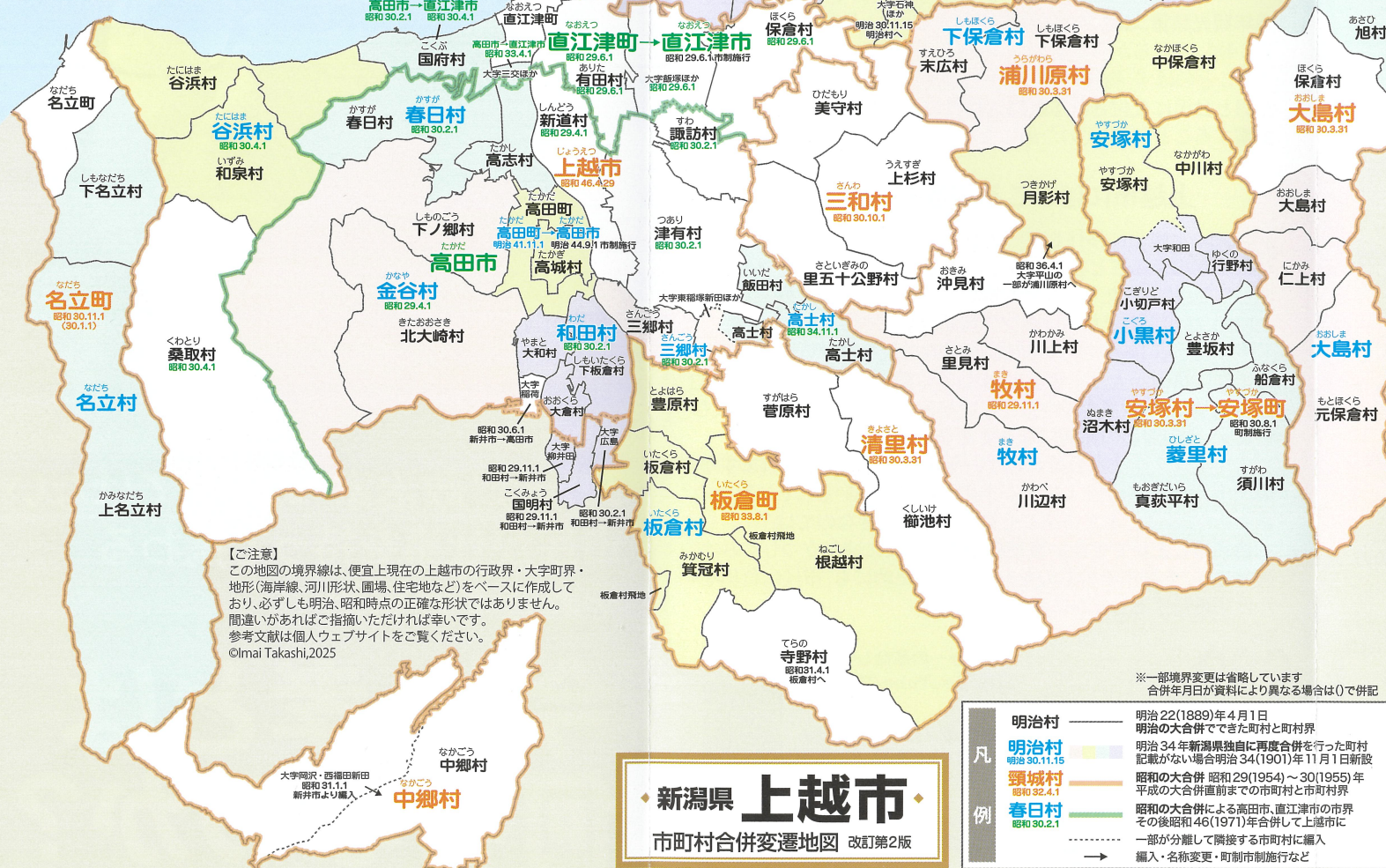
2025年は平成17(2005)年の1市13町村という大合併から20年となります。
私はもともと「まち」のすがたが歴史の中で変わっていくことを研究テーマにしており、
上越市の合併についても移住当初からその意味を考えてきました。

上越市は合併に際してひとつの大きな「まち」にするのではなく、独自の「地域自治区」制度を採用しました。現在旧町村 13 区に合併前上越市 15 区を加えた 28 の地域自治区があります。

それまでの地域活動支援事業という、市民が自ら発案する補助金制度が廃止され、中川市政では「地域独自の予算事業」に踏み切りました。その制度も始まったばかり。20年を経て地域自治区は自治として機能しているのか。市民の関心の低さや人口減少、高齢化もあり、上越市の自治そのものがどうなっていくのかはまったくの未知数に感じます。

行政や市議に任せきりの市政、「やらされている自治」ではなく、
私たちひとりひとりが自分の「まち＝暮らし＝人生」のために
小さくてもできることをやる。

私も先人たちが紡いできたこの「まち」で自分の能力の限りこの「まち」のために生き、次の世代にバトンをつないでこの「上越市」で笑顔で死にたいものです。



経歴。「まち」を考え続けて35年。

1969 1969(昭和44)年4月27日、埼玉県上尾市生まれ
6歳のときに埼玉県所沢市に転居(現在の実家)
所沢市立北小学校卒業
中学受験し、早稲田中・高等学校卒業

1993 早稲田大学第一文学部 日本史学専修卒業(一年留年)
卒業論文は東京の町名変更をテーマに震災復興区画
整理と住居表示制度が東京をどう変えたか研究した

1993年4月～1999年8月
株式会社昭文社(地図出版社) 編集部勤務
新刊ではなく、既に出版された地図の経年変化修正に
携わったことが「**維持**」の**重要性**を考えるきっかけと
なった。国、県、市町村各役所に道路・施設の新設・
改廃を取材に行ったことで行政のしくみを学ぶ

1995 年から退職まで、茨城県つくば市にあった株式会社昭文社地図研究所で編集室主任を任されるリーダーを経験し組織について考えるうちに自分で経営をやりたいという思いが強くなった
また、**東京(中心)**と**地方(周縁)**との間にある**根深い上下関係に違和感**を持つ

2000年、有限会社ウィアクリエイティブ設立
市町村合併変遷地図
「マージアトラスつくば市・荃崎町」
自社出版

明治期以降のつくば市の市町村合併の変遷を1枚の地図で把握しようとする意欲的な地図だった

2002年、ウィアクリエイティブ廃業

2006 地図業界を転々とするも自己破産に至る
2006年、昭文社時代の同僚に拾ってもらい、山梨県上野原市に移住。社会教育系NPOに所属し、ウェブデザイン、映像編集など新たな技術・知見を得る

2009 山梨時代の同僚が上越市出身という縁でなりゆきで上越市に移り住むも仕事がなく、仲町にあったタイヤ販売店に拾ってもらう。エフエム上越を聴き始めたことから交友関係が広がり、上越市政にも関心を持つ

2012 勤めていたタイヤ屋が廃業、一緒に働いていた仲間と
合同会社セカンドオプションを設立し現在に至る

【座右の銘】人の一生は重荷を負て遠き道を行くがごとし 急ぐべからず(徳川家康)

性格。強みと弱み。(長所と短所は裏表)

長 所	短 所
子供の頃から リーダー気質 場の空気を読む、自己犠牲精神	場を乱されたり、かまっても もらえないと すぐ拗ねる
クソ真面目、 正義感 が過剰に強い	超短気です 自己中心的
自己肯定感 が無駄に高い	プライド も超高い
当事者意識、 自分の頭で考え抜く このリーフレットもすべて自作	偽悪的な表現が多い 凝り性で 時間にルーズ

※一部境界変更は省略しています
合併年月日が資料により異なる場合は()で併記